

わくわく無限大！
個性いろいろ
ともに創る
驚きの未来。

2026年2月期通期決算 (補足説明資料)

2026年4月14日

株式会社クリエイト・レストランツ・ホールディングス
【東証プライム 証券コード3387】

目次

I 業績ハイライト

1. 業績の概要[IFRS]
2. 2026年2月期の主な取り組み
3. 業績の概要(カテゴリー別)
4. 要約貸借対照表
5. 資本コストを意識した経営の実現
6. 要約キャッシュ・フロー計算書
7. キャッシュアロケーション

II 2027年2月期業績予想及び株主還元策

1. 2027年2月期通期業績予想の概要
2. 2027年2月期通期業績予想
(売上収益及び営業利益の増減について)
3. 2027年2月期通期業績予想(カテゴリー別)
4. 株主還元策

III CRH社とSFPHD社の合併について

IV 2027年2月期の取り組みと中期経営計画

1. 2027年2月期の重点取り組み
2. 新たな経営体制への移行
3. 中期経営計画(数値計画)
4. グループミッション

V Appendix

1. 出退店及び店舗数について
2. 既存店前年比の推移
3. サステナビリティへの取り組み

(注) 本資料における各カテゴリーに含まれるグループ事業会社

- CRカテゴリー : (株)クリエイト・レストランツ(CR)、(株)クリエイト・ダイニング(CD)
- SFPカテゴリー : SFPホールディングス(株)(SFPHD)、SFPダイニング(株)(SFPD)、(株)ジョー・スマイル(JS)、(株)クルークダイニング(CL)
- 専門ブランドカテゴリー: (株)グルメブランズカンパニー(GBC)、(株)KRフードサービス(KR)、(株)遊鶴(YZ)、(株)いっちょう(IC)、(株)サンジェルマン(SG)、(株)レフボン(LB)、(株)クリエイト・ヌードルズ(CN)※、(株)Tecona Bagel(TB)
※2025年12月1日付で(株)YUNARI、(株)一幻フードカンパニー、(株)狼煙が合併しCNIに商号変更
- 海外カテゴリー : CREATE RESTAURANTS ASIA PTE. LTD.(CRA)、香港創造餐飲管理有限公司(CRHK)、Il Fornaio (America) LLC(IF)、Create Restaurants DE LLC(WF)

I 業績ハイライト

1. 業績の概要[IFRS]

対前期比・対予想比ともに増収減益

売上収益 1,654億円（前期比+91億円、予想達成率100.3%）と過去最高

営業利益 79億円（前期比△6億円、予想達成率82.8%）

親会社の所有者に帰属する当期利益 47億円（前期比△9億円、予想達成率80.6%）

調整後EBITDA 263億円（前期比+1億円、予想達成率96.6%）

✓売上収益について

【前期比】通期で「日常」「定番」業態であるベーカリー及びヌードルブランド、地域密着のいっちょう社が好調を維持し牽引、前期(下期)M&A2社の連結貢献もあり前期に対して91億円の増収

【予想比】カテゴリー間の強弱はあるものの、連結としては概ね予想通り着地(100.3%)

✓利益について(営業利益)

【前期比】CRカテゴリー及び専門カテゴリーは順調に推移するも、SFPカテゴリーの減益を全体で補えず連結としても減益(△6億円)

【予想比】SFPカテゴリー及び海外カテゴリーの減益幅が大きく予想比△17億円で着地

	2025年2月期 (累計)		2026年2月期 1Q単(3月-5月)		2026年2月期 2Q単(6月-8月)		2026年2月期 3Q単(9月-11月)		2026年2月期 4Q単(12月-2月)		2026年2月期 (累計)		対前年 差異	2026年2月期	達成率	
	(単位:百万円)	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績		売上比		通期予想
売上収益		156,354		41,814		41,389		40,364		41,881		165,449		+9,095	165,000	100.3%
営業利益		8,504	5.4%	3,048	7.3%	1,892	4.6%	1,668	4.1%	1,335	3.2%	7,944	4.8%	△ 559	9,600	82.8%
税引前利益		7,659	4.9%	2,992	7.2%	2,139	5.2%	1,595	4.0%	1,133	2.7%	7,861	4.8%	+201	8,800	89.3%
当期利益		6,228	4.0%	2,263	5.4%	1,210	2.9%	1,193	3.0%	549	1.3%	5,218	3.2%	△ 1,010	6,500	80.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益		5,590	3.6%	2,088	5.0%	1,107	2.7%	1,115	2.8%	366	0.9%	4,677	2.8%	△ 913	5,800	80.6%
調整後EBITDA ※1		26,124	16.7%	7,420	17.7%	6,616	16.0%	6,189	15.3%	6,045	14.4%	26,271	15.9%	+146	27,200	96.6%
実質営業利益 ※2		10,794	6.9%	3,439	8.2%	2,349	5.7%	2,219	5.5%	1,278	3.1%	9,287	5.6%	△ 1,507	11,600	80.1%

※1: 調整後EBITDA = 営業利益 + その他の営業費用 - その他の営業収益(協賛金収入を除く) + 減価償却費 + 非経常的費用項目(株式取得に関するアドバイザー費用等)

※2: 実質営業利益 = 営業利益 - 減損損失 - 減損損失戻入益等一過性の費用

2. 2026年2月期の主な取り組み

✓中期経営計画の「成長の3本柱」に資する各施策を着実に実行

柱1

本質的価値の進化

既存ブランドのブラッシュアップと新業態出店

- ◆ 来客数増を目的に**16店改装**
- ◆ 新規で**10業態開発**




老舗甘味処
を承継

紀の善 神楽坂



菜菜麻辣湯イオンナゴヤドーム前

今後
出店
加速

- ◆ 店舗設計施工管理子会社設立  Fast Works
Design Construction Maintenance
- ◆ ブランド横断「美味しさ追求委員会」定期開催

立地の進化

- ◆ ネクストロケーションとして**路面19店出店**
- ◆ グループ内FCを活用し**地方に8店出店**
- ◆ コントラクト事業で**23店新規受託**
 - ➡ コントラクト事業計130店体制(2026年2月末)

柱2

シナジーのあるM&A

25年5月 埼玉のつけ麺有名店
「狼煙(のろし)」

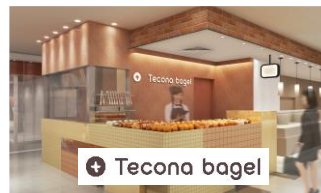
- ➡ ラーメン事業3社合併
CREATE NOODLES 発足
- ➡ 【新店】狼煙川越店(2026年3月)



グループ複合路面出店

26年2月 東京のベーグル専門店
「Tecona Bagel」

- ➡ 【新店】大丸梅田店(同年4月予定)



26年3月 大阪の老舗洋食店
「グリルRON」

- ➡ 関西の商業施設での出店を検討

柱3

海外事業の拡大

北米

Il Fornaio
CUCINA ITALIANA

- ➡ 事業の再構築
 - ・赤字3店撤退
 - ・CEO交代

WILD FLOR WER
EAT. SIP. ENJOY.

- ➡ 事業成長フェーズへ
新店オープン予定
2026年7月アリゾナ州



アジア

シンガポール子会社と
インドネシア現地企業が
「MACCHA HOUSE」
のFC展開で基本合意

MACCHA HOUSE
抹茶館



3. 業績の概要(カテゴリー別)

各カテゴリーに含まれるグループ事業会社は、本資料2ページ下部に記載

✓CRカテゴリー：(対通期予想) 売上↑CF↑

都心商業施設店舗を中心に通期で売上好調を維持、天災や天候不順の影響を受けた店舗の売上減をカバーし売上・CF共に達成

✓SFPカテゴリー：(対通期予想) 売上↓CF↓

磯丸水産の既存店来客数の減少により売上未達、原価率上昇が通期で改善できずCFは予想に対し大幅未達

✓専門ブランドカテゴリー：(対通期予想) 売上↑CF↑

「日常」「定番」業態であるベーカリー、ヌードルブランド及びいちちょう社が好調を維持し通期で貢献

✓海外カテゴリー：(対通期予想) 売上↓CF↓

北米のインフレ疲れで高単価のIl Fornaioが通期苦戦し4Qに悪化、好調なWildflowerで補い切れず売上・CF共に予想未達

✓既存店前年比 (25年2月期末時点店舗基準、休業店舗含む)

カテゴリー	1Q計 (3-5月)	2Q計 (6-8月)	3Q計 (9-11月)	12月	1月	2月	4Q計 (12-2月)	通期
CR	104.6%	104.2%	103.4%	102.9%	102.5%	100.1%	102.1%	103.6%
SFP	99.5%	100.0%	98.1%	100.5%	99.0%	96.0%	98.7%	99.2%
専門ブランド	105.4%	104.3%	101.0%	99.9%	101.0%	98.5%	99.9%	102.7%
海外 (現地通貨)	97.7% (102.1%)	97.0% (101.6%)	97.0% (99.4%)	95.1% (97.1%)	98.3% (100.0%)	100.1% (101.5%)	97.9% (99.2%)	99.5% (100.8%)
連結	102.7%	102.3%	100.6%	100.0%	100.7%	98.8%	100.0%	101.8%

(単位:百万円)

カテゴリー	2025年2月期(累計)			2026年2月期1Q			2026年2月期2Q			2026年2月期3Q			2026年2月期4Q			2026年2月期(累計)			対前年差異			対予想差異	
	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1	売上比	売上収益	加「リ」CF※1
CR	53,973	5,850	10.8%	14,648	1,709	11.7%	14,999	1,731	11.5%	14,627	1,313	9.0%	14,189	1,280	9.0%	58,466	6,035	10.3%	+4,492	+185	Δ0.5%	+1,466	+135
SFP	30,256	3,026	10.0%	7,751	765	9.9%	7,593	444	5.9%	7,405	358	4.8%	8,369	886	10.6%	31,119	2,454	7.9%	+863	Δ 571	Δ2.1%	Δ 1,381	Δ 846
専門ブランド	48,908	5,458	11.2%	12,828	1,663	13.0%	12,885	1,537	11.9%	11,971	1,027	8.6%	12,529	1,412	11.3%	50,214	5,641	11.2%	+1,306	+182	+0.1%	+214	+141
海外	23,262	2,212	9.5%	6,643	691	10.4%	6,055	324	5.4%	6,458	717	11.1%	6,882	648	9.4%	26,039	2,380	9.1%	+2,777	+168	Δ0.4%	Δ 961	Δ 720
その他調整等※2	Δ 45	9,577	-	Δ 57	2,591	-	Δ 143	2,578	-	Δ 99	2,772	-	Δ 89	1,817	-	Δ 390	9,759	-	Δ 344	+182	-	+1,110	+359
合計	156,354	26,124	16.7%	41,814	7,420	17.7%	41,389	6,616	16.0%	40,364	6,189	15.3%	41,881	6,045	14.4%	165,449	26,271	15.9%	+9,095	+146	Δ0.8%	+449	Δ 929

(注)24年9月1日付のグループ内組織再編(KR社がもつコントラクト事業をCR社が吸収分割)を加味して、前期実績はカテゴリー組み替え後の数値を反映

※1:カテゴリーCF=営業利益(日本基準)+減価償却費+協賛金収入+非経常的費用項目

※2:IFRS16号適用に伴う減価償却費のほか、主に各カテゴリーには配分していない本社経費等

4. 要約貸借対照表

- ✓ 新規出店、M&Aによる2社の連結開始等による事業拡大により資産合計は1,400億円に増加
- ✓ 最終利益積み上げにより、自己資本比率(31.3%)・調整後自己資本比率(46.2%)は着実に改善

(単位:百万円)

	2025年2月期	2026年2月期	増減	備考
流動資産	30,625	27,340	△ 3,285	
〔現預金〕	21,474	17,497	△ 3,977	借入金の返済
非流動資産	106,543	112,329	+5,786	新店等設備取得及びM&A2社連結開始
〔のれん〕	26,544	25,755	△ 789	
資産合計	137,168	139,669	+2,501	
流動負債	44,793	36,131	△ 8,662	借入金の返済
非流動負債	48,386	55,650	+7,264	借入金の借り換え及びリース負債増加
〔社債及び借入金(合計)〕	26,216	21,045	△ 5,171	借入金の返済
負債合計	93,179	91,781	△ 1,398	
資本合計	43,989	47,888	+3,899	
〔親会社所有分〕	40,167	43,769	+3,602	
負債及び資本合計	137,168	139,669	+2,501	
自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)	29.3%	31.3%	+2.0%	
ネットD/レシオ	1.15倍	1.09倍	△ 0.06倍	

<参考> IFRS16号の影響を除いた数値

	2025年2月期	2026年2月期	増減	備考
資産合計(IFRS16号影響を除く)	98,497	98,084	△ 413	
負債合計(IFRS16号影響を除く)	52,365	48,424	△ 3,941	
〔親会社所有分〕(IFRS16号影響を除く)	42,252	45,324	+3,072	
調整後自己資本比率 ※1	42.9%	46.2%	+3.3%	
調整後ネットD/レシオ ※2	0.16倍	0.12倍	△ 0.04倍	

※1: 調整後自己資本比率: 自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)からIFRS16号の影響を除外した比率

※2: 調整後ネットD/レシオ: ネットD/レシオからIFRS16号の影響を除外した倍率

5. 資本コストを意識した経営の実現

- ✓ 税前WACC(8.5%)の低下により**ROICスプレッド**はプラス拡大(15.8%)し企業価値は向上
→税前WACCは、コロナ禍のボラティリティの高さにより上昇していたが、脱コロナにより安定し低下
- ✓ 10%超のROEにより、PBRも7倍前後で推移(依然高い水準を維持)
→厳格な基準による投資の実行と機動的な不振店対策で高い資本効率を実現

	2024年2月期	2025年2月期	2026年2月期
ROE	15.4%	14.7%	11.1%
株主資本コスト(税後) ※1	7.9%	9.2%	6.2%
調整後ROIC ※2	24.5%	24.7%	24.3%
税前WACC ※3	11.6%	12.4%	8.5%
ROICスプレッド ※4	12.9%	12.3%	15.8%
PBR	6.13倍	6.53倍	7.09倍

※1:株主資本コスト(税後)類似上場企業を参考にCAPM(資本資産価格モデル)により算出
 ※2:調整後ROIC=調整後EBITDA÷株主資本及び有利子負債の期初・期末残高の平均
 ※3:税前WACC=(株主資本コスト/(1-実効税率))×株主資本比率+(負債コスト×負債比率)
 ※4:**ROICスプレッド**=調整後ROIC-税前WACC



引き続き、「事業の資本収益性の維持向上」と「株主還元」とのバランスを図り、企業価値の向上を目指す

6. 要約キャッシュ・フロー計算書

- ✓営業キャッシュ・フロー：主に法人所得税の支払額等の増加により前期比30億円減少し+230億円の収入
- ✓投資キャッシュ・フロー：M&A投資額が前期より少額となり34億円支出が減少し△58億円の支出
- ✓財務キャッシュ・フロー：借入金の返済を進めたことにより前期比47億円支出が増加し△213億円の支出

(単位:百万円)

	2025年2月期	2026年2月期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,991	23,002	△2,989
税引前当期利益	7,659	7,861	+202
減価償却費	15,487	16,434	+947
減損損失・減損損失戻入	1,763	1,342	△421
法人所得税の支払額・還付額の増減	△114	△2,352	△2,238
その他の増減	1,196	△283	△1,479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,199	△5,822	+3,377
有形固定資産の取得による支出	△3,410	△4,690	△1,280
M&A関連投資	△5,234	△508	+4,726
その他	△555	△624	△69
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,657	△21,340	△4,683
長期・短期借入金・社債の増減	△1,369	△5,210	△3,841
リース負債の返済による支出	△13,478	△13,889	△411
配当金の支払額(非支配株主持分含む)	△1,808	△2,039	△231
その他	△2	△202	△200
現金及び現金同等物の増減	168	△3,976	△4,144
現金及び現金同等物の期末残高	21,474	17,497	△3,977

7. キャッシュアロケーション

✓「成長に向けた投資」と「財務規律の維持」の両立を考え資金配分を実行

- 国内M&A、新規出店、業態変更及び投資効率の高い改装を中心とした設備投資等、成長に向けた投資を主に借入で実行
- 配当金及び有利子負債の返済等は、主に既存店が生み出す調整後EBITDAから充当

キャッシュイン

待機資金24億円
借入
32億円
調整後EBITDA
263億円

キャッシュアロケーション

M&A	一幻、狼煙、Tecona Bagel	7億円
設備投資	・ 新規出店(32店※コントラクト除く) ・ 業態変更(19店) ・ 改装/修繕 ・ DX(自動釣銭機等)、AI関連	47億円
株主還元	配当金	20億円
IFRS16号のリース負債返済		139億円
借入返済		82億円
税金		24億円

Ⅱ 2027年2月期業績予想 及び株主還元策

1. 2027年2月期通期業績予想の概要

✓前期比 増収増益の予想（売上収益 +56億円、営業利益 +11億円）

→売上収益、営業利益ともに過去最高

事業環境

[需要サイド] インフレを背景にした選択型消費の定着、国や地域による差はあるもののインバウンド需要は概ね堅調
[供給サイド] 人手不足は継続、食材やエネルギーコストは高水準で推移する見通し(地政学リスクの高まり等により更なる上昇の可能性あり)

前提

[売上収益] 来客数アップへの取り組み及び適正価格化の継続を通じ既存店前年比(通期)103.0%を想定
[設備投資] 新規出店34店(予定)、新業態開発や業態変更、来客数アップに資する改装及びテクノロジーに積極投資
[原価率] 単価上昇圧力を適正価格化や物流の効率化等で吸収することで前期並みを想定
[人財取組] 社員昇給ファンド総額の5.0%増継続(3年連続)、DX・AI活用、シニアや外国人財等の多様な活躍を推進

	2026年2月期		2027年2月期 (通期予想)		差異	増減率
	(単位:百万円)	実績	売上比	予想		
売上収益		165,449		171,000	+5,550	103.4%
営業利益		7,944	4.8%	9,000	+1,055	113.3%
税引前利益		7,861	4.8%	8,000	+138	101.8%
当期利益		5,218	3.2%	6,000	+781	115.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益		4,677	2.8%	5,700	+1,022	121.9%
調整後EBITDA ※1		26,271	15.9%	27,100	+828	103.2%
実質営業利益 ※2		9,287	5.6%	11,000	+1,712	118.4%

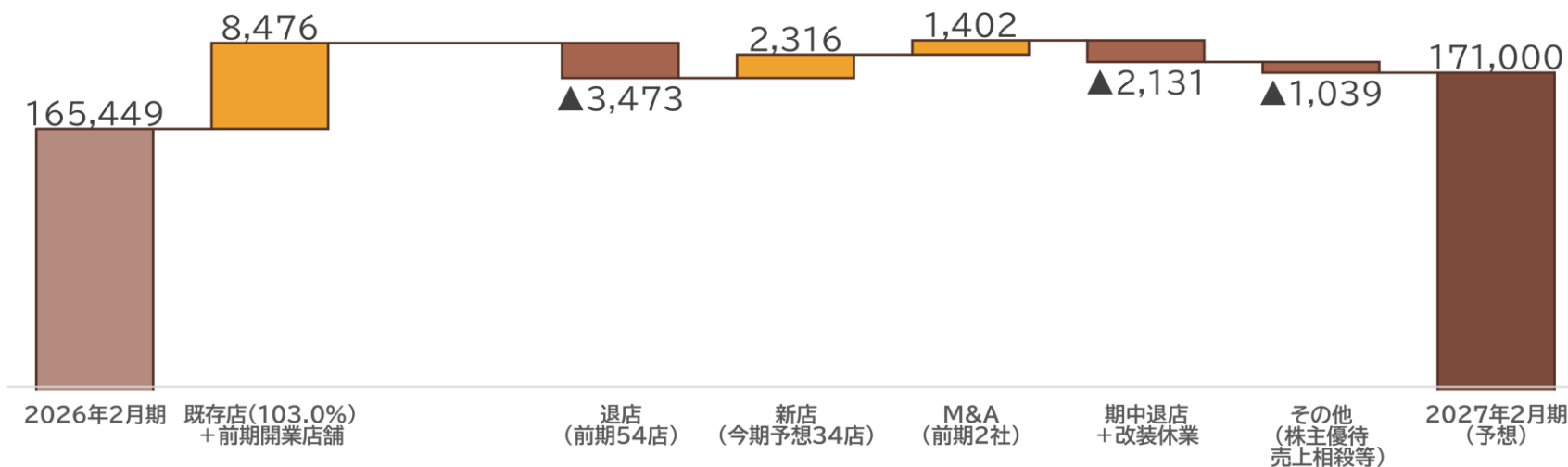
※1: 調整後EBITDA = 営業利益 + その他の営業費用 - その他の営業収益(協賛金収入を除く) + 減価償却費 + 非経常的費用項目(株式取得に関するアドバイザー費用等)

※2: 実質営業利益 = 営業利益 - 減損損失 - 減損損失戻入益等一過性の費用

2. 2027年2月期通期業績予想 (売上収益及び営業利益の増減について)

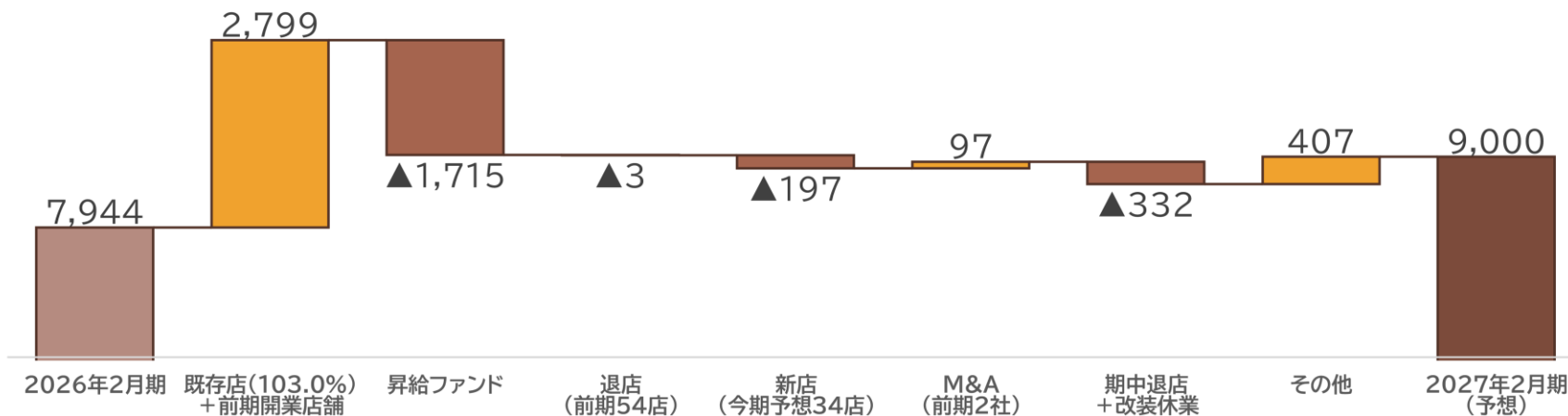
✓売上収益の増減要因

(単位:百万円)



✓営業利益の増減要因

(単位:百万円)



3. 2027年2月期通期業績予想(カテゴリー別)

✓カテゴリー別通期業績予想について

- 既存店の来客数アップの取り組み、新規出店及びM&Aによる店舗数増により全カテゴリーで増益を見込む
- 2027年2月期よりSFPカテゴリーを**居酒屋カテゴリー**に名称変更

【2027年2月期 出退店予想一覧】

(単位:百万円)	2026年2月期 (前期実績)			2027年2月期 (通期予想)			差異			2026年 2月末 店舗数	増減数		M&A	2027年 2月末 予想 店舗数
	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比	売上収益	カテゴリーCF※1	売上比		出店	退店		
CR	58,466	6,035	10.3%	59,700	6,290	10.5%	+1,234	+255	+0.2%	523	15	9		529
専門ブランド	50,214	5,641	11.2%	52,500	5,750	11.0%	+2,286	+109	△0.3%	335	5	2	10	348
居酒屋(IBSFP)※2	31,119	2,454	7.9%	33,400	2,840	8.5%	+2,281	+386	+0.6%	210	12	2		220
海外	26,039	2,380	9.1%	25,600	2,660	10.4%	△439	+280	+1.3%	57	2	1		58
その他調整等 ※3	△390	9,759	-	△200	9,560	-	+190	△199	-	-	-	-	-	-
合計	165,449	26,271	15.9%	171,000	27,100	15.8%	+5,551	+829	△0.0%	1,125	34	14	10	1,155

※1:カテゴリーCF=営業利益(日本基準)+減価償却費+協賛金収入+非経常的費用項目

※2:2027年2月期よりSFPカテゴリーを**居酒屋カテゴリー**に名称変更

※3:IFRS16号適用に伴う減価償却費のほか、主に各カテゴリーには配分していない本社経費等

✓CRカテゴリー : 増収増益

コアブランドを中心とした来客数アップに資する改装の効果による既存店収益の向上、好調な新業態への積極的な変更

✓居酒屋(IBSFP)カテゴリー : 増収増益

積極的な改装投資含めた磯丸水産の回復、低価格ニーズに応える業態への変更、好調な大衆酒場の新規出店増

✓専門ブランドカテゴリー : 増収増益

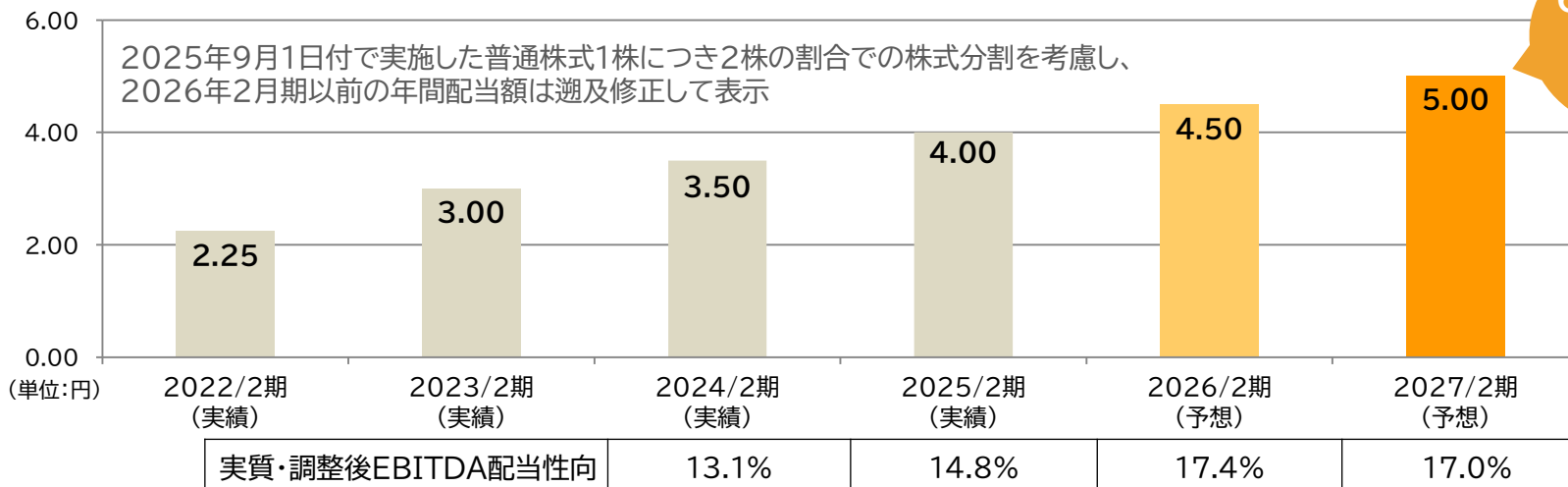
好調なベーカリーやヌードルブランドの出店拡大、直近のM&AであるTecona Bagel及びロンの通期貢献

✓海外カテゴリー : 減収増益

不採算店閉店により減収、前期より苦戦が続く北米Il FornaioのCEO交代による抜本的改善により増益

4. 株主還元策

✓2027年2月期の配当予想 中間2.50円、期末2.50円 〈年間5.00円〉



6期連続の
実質増配
(予想)

配当方針

当社は、株主への利益還元を経営上の重要政策として位置づけ、安定的な配当を行うことを基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の配当を実施予定

→配当金額は、原則「実質・調整後EBITDA配当性向※」14%以上を目途とし、業績や財務状況、今後の事業展開等を総合勘案した上で決定

※ 実質・調整後EBITDA配当性向(IFRS16号の影響を除く) = 配当金総額 ÷ (調整後EBITDA - IFRS16号のリース負債返済額) × 100

✓株主優待制度 企業方針として重要な株主還元策と位置付け、今後も継続して実施

⇒株式分割に合わせ増額拡充した株主優待制度を2026年5月中旬発行予定より適用

優待利用可能店舗の拡充

2026年5月より以下の2店舗で利用可能に

- ◆ tecona bagel works 代々木八幡
- ◆ Tecona bagel 自由が丘

新店 Tecona bagel 大丸梅田
→4月20日から利用可能(予定)



株式会社ロン各店舗の株主優待の利用については、2026年6月より順次開始予定 (開始時に別途発表)



Ⅲ CRH社とSFPHD社の 合併について

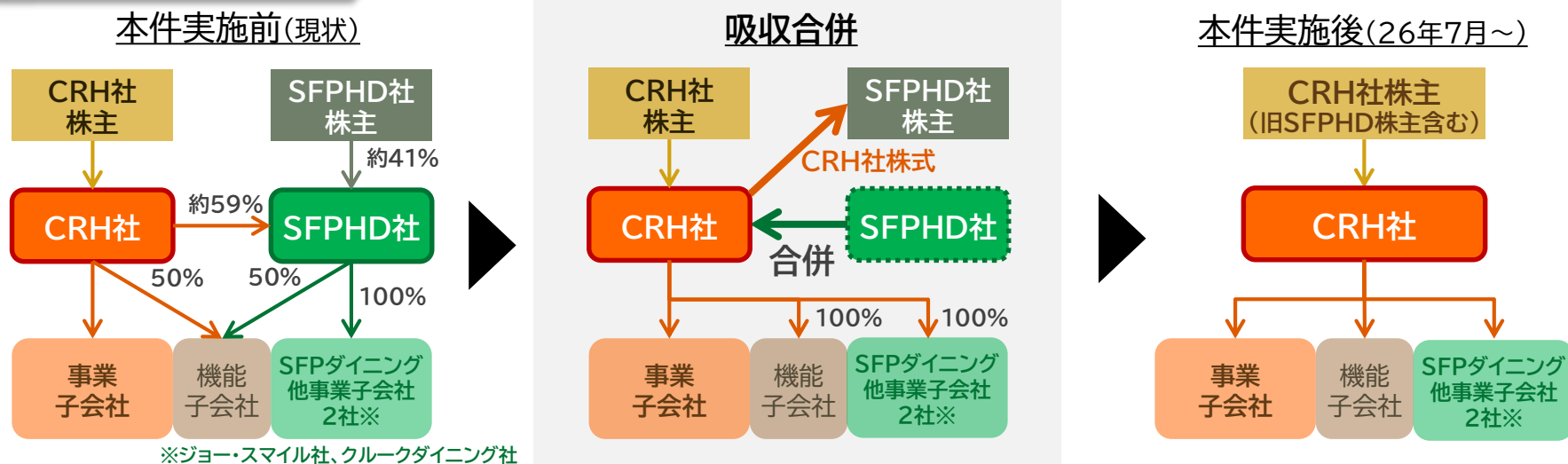
CRH社とSFPHD社の合併について①

2026年7月1日付けにて、株式会社クリエイト・レストランツ・ホールディングスとSFPホールディングス株式会社が合併することで親子上場を解消することを発表（2026年4月14日開示）

本件概要

本合併の対象会社	株式会社クリエイト・レストランツ・ホールディングス(以下、CRH社)【東証プライム 証券コード3387】 SFPホールディングス株式会社(以下、SFPHD社)【東証プライム 証券コード3198】
本合併の手法	CRH社が存続会社、SFPHD社が消滅会社となる吸収合併
本合併に係る割当比率	CRH社は、SFPHD社株式1株に対して、CRH社株3.2株を割当交付 ※算定の根拠となる諸条件に重大な変更が生じた場合、CRH社及びSFPHD社が協議した上で、合意により変更されることがあります
本合併の日程	2026年7月1日(予定)

スキーム



CRH社とSFPHD社の合併について②

目的

「グループ連邦経営の更なる深化」

グループ内の経営資源を最適に再配分することで、激変する外部環境に一丸となって立ち向かい、更なる成長を目指す

現状の課題

- ・激変する外部環境
→インフレ、地政学リスク、人手不足、2次会需要減、若者のアルコール離れ等
- ・経営資源の分散
- ・意思決定の多層化
- ・親子上場の構造的課題



合併



グループ全体の企業価値向上

成長・シナジー加速

- ・経営資源の最適配分(資金・人・情報)
- ・グループのリソース活用による
 - ①居酒屋事業の本質的改善
 - ②SFPブランドの拡大(国内地方、海外)
- ・路面物件情報をヌードル出店に活用

効率化

- ・重複機能集約
「HD機能」
「インフラ機能」
- ・上場維持
コストの削減

人的資本の活性化

- ・SFPHD社人財のキャリアパスの多様化による専門性の向上
(海外事業、IFRS会計等)

今後のスケジュール




(注)2026年4月14日以降のスケジュールは全て予定



IV 2027年2月期の取り組みと 中期経営計画

1. 2027年2月期の重点取り組み

✓ 中期経営計画2年目として、既存店の来客数アップのための本質的課題の改善と環境変化への対応を更に進める

成長の3本柱	本質的価値の進化	<input type="checkbox"/> 来客数アップへの取り組み  <input type="checkbox"/> 居酒屋事業の本質的改善 <input type="checkbox"/> ネクスト・コアブランドの積極展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 「価格を上回る価値提供」を図るQSC向上への取り組み、主要事業会社の社長交代による活性化 ● コアブランドを中心とした多数店舗で、客席数の最適化を含むリフレッシュ改装を実施 ● 磯丸水産の改善注力 ● グループインフラを活用したSFPブランドの拡大 ● 菜菜麻辣湯等、好調な新業態を積極的に展開 
	M&A	<input type="checkbox"/> 国内及び海外M&Aの加速	<ul style="list-style-type: none"> ● シナジー創出に向けTecona Bagel、ロンのPMIを推進 ● 国内・北米を中心に年間2件以上のM&Aを目指す
	海外事業	<input type="checkbox"/> アジアFC展開及び欧州進出	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア圏でのFCビジネス拡大(海外子会社の自律的拡大) ● 欧州進出に着手
成長を支える3基盤	テクノロジーの活用	<input type="checkbox"/> デジタル・マーケティング加速 <input type="checkbox"/> DX・AI活用	<ul style="list-style-type: none"> ● かごの屋・磯丸水産に続くブランド別アプリの実装推進 ● インフルエンサーマーケティング推進 ● AI売上予測からの発注自動化のテスト開始 ● 社内チャットボット実装による業務効率化 
	人的資本経営の推進	<input type="checkbox"/> 安心施策/活躍施策の推進継続	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員昇給ファンド5.0%増継続(3年連続) ● ありがとうプロジェクト(感謝を伝え合う取り組み)開始 ● シニア社員の活躍推進 ● 女性活躍推進Mtg、外国人社員の特定2号取得支援継続
	サステナビリティ推進	<input type="checkbox"/> 脱炭素社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流ルート見直しによる効率化(CO2削減)

2. 新たな経営体制への移行

✓ 新たな経営体制への移行(2026年5月27日定時株主総会后予定)

氏名	役職名	中期経営計画における役割	管掌部門(変更箇所)
後藤 仁史	代表取締役会長 (Executive Chairman)		
川井 潤	代表取締役社長 CEO	最高経営責任者: グループ全体のビジョン及びサステナビリティ	食の安全安心推進室、内部統制システム推進室、グループ監査室、サステナビリティ推進室、社長室
島村 彰	常務取締役 CDO	最高デジタル責任者: データドリブン経営によるマーケティング変革及びDX・AI活用の推進	商品部(CMD社)、マーケティング部、情報システム推進室、DX・AI推進室、店舗設計管理部(FW社)
大野 仁之	常務取締役 CSO	最高戦略責任者: 国内外M&Aの加速及びアジアFC・欧州進出によるグローバル成長戦略の主導	経営企画部、海外事業部、北米事業投資推進部
大内 源太	取締役 CFO	最高財務責任者: 経理・IR・財務ガバナンス及び資本効率	経理部、 財務部 、IR部、CS社
両角 元勝	取締役 CHRO	最高人事責任者: 人的資本経営の推進	人事部 、 総務部
望月 進	執行役員	ブランド価値創造: 新業態開発及び次世代コアブランドの積極的展開	店舗開発部 、 事業開発部 、 クリエイト・ブランド・ラボ
原田 尚彦	(新任) 執行役員	国内事業の競争力強化: 既存店お客様数の最大化及び顧客体験価値向上への取り組み	グループ事業戦略部

非業務執行 取締役	松井 晴美	石井 祐輔	松岡 一臣	大塚 美幸	片山 典之
	社外取締役	取締役(監査等委員)	社外取締役(監査等委員)	社外取締役(監査等委員)	社外取締役(監査等委員)

✓ 事業会社5社の代表取締役の交代

対象会社	KRフードサービス	サンジェルマン	クリエイト・ダイニング	いっちょう	Il Fornaio
氏名	濱埜 直人	日野 大平	原田 一正	春田 将希	Ronald Joseph Thomas Jr.
旧役職	サンジェルマン 社長	いっちょう 社長	(内部昇格)	(内部昇格)	(外部招聘)
異動日	2026年3月1日付				同年3月25日付

3. 中期経営計画(数値計画)

- 前年に開示した中期経営計画の最終年度である2030年2月期目標は変更なし
- 2027年2月期予想はグループ内の2社(Tecona Bagel、ロン)の通期貢献とグループ再編による影響を反映

(単位:百万円)	2026年2月期 (実績)		未確定のM&Aは含まず					
			2027年2月期 (予想) <small>(予想値として開示)</small>		2028年2月期 (計画) <small>(計画値の変更)</small>		2029年2月期 (計画) <small>(新規で開示)</small>	
売上収益	165,449		171,000		178,000		185,000	
営業利益	7,944	4.8%	9,000	5.3%	10,000	5.6%	12,000	6.5%
税引前利益	7,861	4.8%	8,000	4.7%	9,000	5.1%	11,000	5.9%
当期利益	5,218	3.2%	6,000	3.5%	6,700	3.8%	8,100	4.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	4,677	2.8%	5,700	3.3%	6,700	3.8%	8,100	4.4%
調整後EBITDA	26,271	15.9%	27,100	15.8%	28,100	15.8%	29,900	16.2%
実質営業利益	9,287	5.6%	11,000	6.4%	12,000	6.7%	14,000	7.6%

プラスM&A
2027年2月期～2030年2月期の新規M&Aによる上積み

M&A込み 2030年2月期 (目標) <small>(変更なし)</small>	
売上収益	230,000
営業利益	16,000 7.0%
税引前利益	15,000 6.5%
当期利益	10,500 4.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	9,500 4.1%
調整後EBITDA	38,000 16.5%
実質営業利益	18,000 7.8%

● 重要指標

1株当たり配当金	4.50円(実質)※	5.00円(予想)	実質・調整後EBITDA配当性向14%以上を目途に配当決定	
既存店前年比	101.8%	103.0%	103.0%	103.0%
出店数	56店	34店	30~40店	30~40店
M&A店舗数	7店	10店	--	--
調整後ROIC	24.3%			25%
(税前WACC)	(8.5%)			(12.4%)
(ROICスプレッド)	(15.8%)			(12.6%)
自己資本比率	31.3%			30%以上

※2025年9月1日付で実施した普通株式1株につき2株の割合での株式分割を考慮した実質額

・調整後EBITDA=営業利益+その他の営業費用-その他の営業収益(協賛金収入を除く)+減価償却費+非経常的費用項目(株式取得に関するアドバイザー費用等)
 ・実質営業利益=営業利益-減損損失-減損損失戻入益等一過性の費用
 (注) ・調整後ROIC=調整後EBITDA÷株主資本及び有利子負債の期初・期末残高の平均
 ・税前WACC=(株主資本コスト/(1-実効税率))×株主資本比率+(負債コスト×負債比率)
 ・ROICスプレッド=調整後ROIC-税前WACC

4. グループミッション



わくわく無限大！
個性いろいろ
ともに創る
驚きの未来。

Environment

Governance

V Appendix

1. 出退店及び店舗数について

✓2026年2月末グループ総店舗数：1,125店舗

	店舗数	主な内訳
新規出店	56	<p>コアブランド：「しゃぶ菜」6店、「サンヴァリエ」稲田、「TANTO TANTO」広島、「磯丸水産食堂」2店、「ちゅら屋」五反田TS 「AWkitchen」/「海南鶏飯食堂」ららぽーと安城、「磯丸水産」5店、「五の五」3店、「とろたく」2店</p> <p>新/他ブランド：「一幻」梅田、「しゃる うい キャンディ？」御殿場PO、「紀の善」神楽坂、「mugi bagel」目黒、 「からあげセンター」イオンM須坂、「ひとにぎり」浅草ROX2G、「牛かつふたば亭」ららぽーとTB、「桜馬亭」 JA全農コラボ：「あぐり」7店、「信州そだち」、「ぴゅあ」5店、「純」3店、「新鮮ほるもん」弐日市亭、「みのる食堂」金沢、他2店</p> <p>新規業務受託：SAPA内フードコート、「角川食堂」ところざわST、ゴルフ場内レストラン2店</p> <p>海外FC：「一幻」台湾高雄</p>
退店	54	(主に国内は契約満了、海外は不振のフランチャイズ店舗退店)
M&A	7	「狼煙」4店、「手揉み中華そば中村」、「tecona bagel works」代々木八幡、「Tecona bagel」自由が丘
業態変更	19	<p>コアブランド：「海人酒房」2店、「JEAN FRANÇOIS」田園調布、「TETSU」溝の口、「鳥平ちゃん」綱島西口、 「デザート王国」イオンM四条畷</p> <p>新/他ブランド：「白いたぬきホール」、「八山」紀尾井町、「みかわ」、「San Antonio」、「ひとにぎり」3店、「山賊のすみか」、 「THE PLATINUM」沖縄、「菜菜麻辣湯」2店、「はしや」SPアリオ柏、「せいろ蕎麦ゆうづる」</p>

【2026年2月期 出退店一覧】

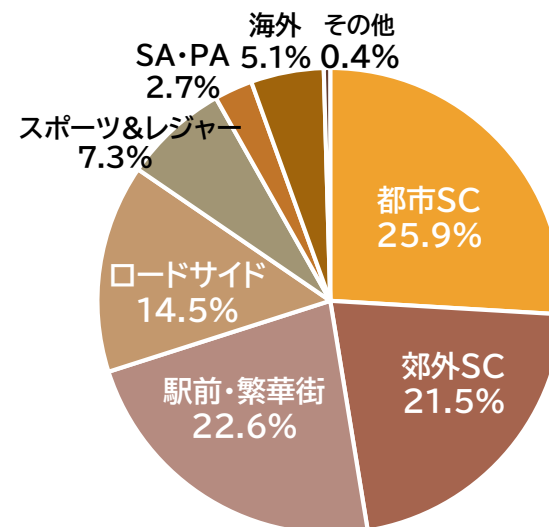
カテゴリー	2025年 2月末 店舗数	増減数		M&A	2026年 2月末 店舗数	業態 変更 ※1
		出店	退店			
CR	518	33	28	0	523	16
SFP	203	12	5	0	210	1
専門ブランド	325	10	7	7	335	2
海外※2	70	1	14	0	57	0
グループ 総店舗数※3	1,116	56	54	7	1,125	19

※1:グループ内における業態変更も含めた店舗数

※2:CD社のジャカルタFC2店、KR社のタイFC4店、CN社の香港FC4店及び台湾FC2店を含む

※3:当該期末での業務受託店舗、FC店舗を含むグループ総店舗数を記載

【立地別店舗数の構成比(2026年2月末時点)】



2. 既存店前年比の推移

各カテゴリーに含まれるグループ事業会社は、本資料2ページ下部に記載

【連結】

	3月	4月	5月	1Q計 (3-5月)	6月	7月	8月	2Q計 (6-8月)	9月	10月	11月	3Q計 (9-11月)	12月	1月	2月	4Q計 (12-2月)	通期計
2026年2月期	101.7%	103.2%	104.2%	102.7%	99.9%	100.8%	105.5%	102.3%	98.3%	101.6%	101.8%	100.6%	100.0%	100.7%	98.8%	100.0%	101.8%
2025年2月期	108.8%	104.5%	104.9%	106.1%	110.4%	103.6%	108.1%	107.2%	108.8%	104.1%	108.9%	107.1%	106.0%	106.1%	104.2%	105.5%	106.1%

【カテゴリー別】

		3月	4月	5月	1Q計 (3-5月)	6月	7月	8月	2Q計 (6-8月)	9月	10月	11月	3Q計 (9-11月)	12月	1月	2月	4Q計 (12-2月)	通期計
CR	2026年2月期	102.5%	104.9%	106.5%	104.6%	101.1%	102.2%	108.5%	104.2%	99.7%	105.0%	105.4%	103.4%	102.9%	102.5%	100.1%	102.1%	103.6%
	2025年2月期	110.2%	104.2%	103.7%	106.0%	112.0%	104.1%	107.5%	107.8%	109.7%	103.7%	109.3%	107.5%	106.3%	106.1%	103.9%	105.6%	106.7%
SFP	2026年2月期	97.3%	100.0%	101.1%	99.5%	96.8%	98.9%	104.2%	100.0%	96.4%	99.0%	98.9%	98.1%	100.5%	99.0%	96.0%	98.7%	99.2%
	2025年2月期	107.9%	103.9%	105.3%	105.7%	107.4%	100.4%	104.0%	103.8%	105.8%	102.1%	108.1%	105.3%	103.7%	107.2%	102.9%	104.7%	104.9%
専門 ブランド	2026年2月期	104.2%	105.1%	106.9%	105.4%	102.9%	103.1%	106.4%	104.3%	99.1%	100.7%	103.0%	101.0%	99.9%	101.0%	98.5%	99.9%	102.7%
	2025年2月期	107.8%	103.9%	102.5%	104.7%	110.2%	103.6%	111.1%	108.4%	109.6%	104.8%	109.1%	107.8%	104.8%	102.8%	103.1%	103.6%	106.1%
海外	2026年2月期	100.6%	100.1%	98.4%	97.7%	96.6%	95.0%	97.2%	97.0%	95.8%	99.1%	94.8%	97.0%	95.1%	98.3%	100.1%	97.9%	99.5%
	(現地通貨 ^A -ス)	(100.8%)	(103.1%)	(102.8%)	(102.1%)	(102.0%)	(100.5%)	(101.7%)	(101.6%)	(99.2%)	(102.0%)	(97.1%)	(99.4%)	(97.1%)	(100.0%)	(101.5%)	(99.2%)	(100.8%)
海外	2025年2月期	108.7%	108.1%	114.1%	110.9%	111.1%	107.8%	107.9%	108.3%	108.8%	106.0%	108.7%	107.1%	109.5%	112.6%	108.1%	109.6%	106.6%
	(現地通貨 ^A -ス)	(97.3%)	(95.4%)	(100.7%)	(97.8%)	(98.3%)	(95.7%)	(97.5%)	(97.8%)	(100.0%)	(98.4%)	(101.4%)	(100.0%)	(102.3%)	(105.3%)	(101.4%)	(102.9%)	(100.0%)

※ 既存店前年比は、25年2月期末時点店舗基準、休業店舗含む

3. サステナビリティへの取り組み



サステナアワード2026 を開催



店舗独自のサステナビリティ活動の共有を通じた従業員一人一人のサステナビリティ意識の向上と、グループ全体の取り組みの底上げを目的とした「CRGサステナアワード2026」を開催。計141店舗を表彰、優秀な取り組みの店舗に対し経営方針発表会議にて表彰状を授与



総合グランプリ +食のサステナ部門グランプリ

Jヴィレッジ レストラン アルパインローズ
(福島県双葉郡)



- ・地元生産者からの仕入れ、訪問・手伝い等の連携
 - ・地元食材をアピールするメニュー開発や店舗内の演出、料理教室の開催
- 等を継続的に実行し福島県産食材の魅力発信に努めた

「福島復興の一助になれば」という想いから始めました
(同店調理長)



地球・社会のサステナ部門グランプリ

賤ヶ岳サービスエリア(上り)
(滋賀県長浜市)

就労支援施設や地元企業数社と連携し、地元食材きんたろうしいたけの規格外品等を活用したスープを商品化、地域社会に貢献



人のサステナ部門グランプリ

しゃぶ菜 イオンモール熊本店
(熊本県上益城郡)

多様な人財が活躍するためのコミュニケーションに工夫を凝らし、働きがいのある職場作りを実現



ご注意

本資料は、2026年2月期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません

また、本資料に記載した内容は、資料作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、その情報の正確性、完全性を保障または約束するものではなく、予告なしに変更される可能性があります

《IRに関するお問い合わせ先》

IR部

8022@createrestaurants.com